

早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」主催

2019年度 ワークショップ

「アニメーションのイメージとはなにか」第2回 2020年代のアニメーションへ向けて

日時 2020年1月12日(日) 15:30~19:30

場所 早稲田大学戸山キャンパス 36号館 6階 681教室

〈第1部〉 15:30~17:20

野村建太 (映像作家/日本大学専任講師)

高瀬康司 (Merca 代表)

『この世界の(さらにいくつもの)片隅に』の
現場から考える

〈第2部〉 17:30~19:00

土居伸彰 (ニューディアー代表/新千歳空港国際アニメーション

映画祭フェスティバル・ディレクター) **十高瀬康司**

十石岡良治 (早稲田大学准教授)

アニメーションにおいて2010年代とは何だったのか

19:00~19:30 パネルディスカッション

野村建太 **十土居伸彰**

十高瀬康司 **十石岡良治**

お問い合わせ先 「イメージ文化史」研究部門: imagebunkashi@list.waseda.jp

◆野村建太

1987年京都府生まれ。2012年、日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了。東京映像旅団メンバー。日記映画とアニメーションをテーマに、創作と研究を行っている。イメージフォーラム・フェスティバル、アテネ国際アニメーション映画祭、ワットン映画祭（ミャンマー）など上映多数。『16日間』（13）、『日記自転車』（14）など、原稿用紙をモチーフにした作品がある。アニメーション映画『この世界の（さら）にいくつもの）片隅に』（19）では、特殊作画・演出補・撮影監督を務めた。

◆高瀬康司

サブカルチャー批評、アニメ研究、編集、ライター。『ユリイカ』（青土社）などでの批評、各種アニメ・マンガ・デザイン誌やWeb媒体、Blu-ray&DVDブックレットへの寄稿多数。カルチャー批評ZINE『Merca』編集長。

◆土居伸彰

1981年東京生まれ。ニューディアー代表。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）。新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバル・ディレクター。ロシアの作家ユーリー・ノルシュテインを中心とした非商業・インディペンデント作家の研究を各大学の非常勤講師や助手を通じて行うかわら、Animations Creators and Critics や CALF といったグループの一員として、上映イベントの企画や執筆等を通じて、世界のアニメーション作品を広く紹介する活動にも精力的に関わってきた。海外映画祭での審査員やキュレーターとしての活動経験も多い2016年、初の著書『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』（フィルムアート社）を出版。

◇予約不要、入場無料。ご来場をお待ちしています。

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」研究部門

共催：科研費基盤研究C（代表者：石岡良治）「日本のアニメーションおよび「アニメ」に関する理論的言説についての歴史的研究」（課題番号：19K00163）

